

岩室ネットワーク

■この広報紙にあなたが写って
いましたら、総務課企画係（☎82
-4111内線 215）へご連絡くださ
い。写真をさしあげます。

いい顔、ありがとう

4月19日のポリオ生ワクチン投与から



暖かい春の日差しに包まれて

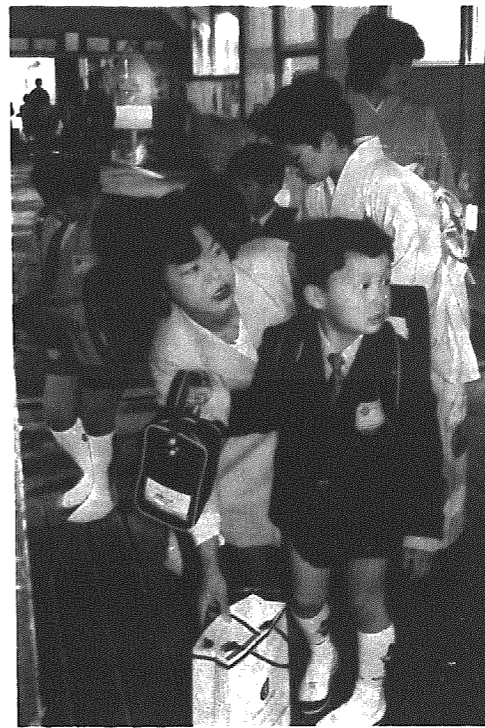
胸躍るね！新一年生



真新しいランドセルに胸を躍らせ、村内の小学新一年生が学校生活の第一歩を踏み出しました。入学式は先月四日、三小学校で一斉に行われ、ランドセルの方が大きく見える子供たちの手を引いて、「わたしが主役！」といった感じのお母さんたちとともに、各小学校へ。

受付で、チェックを受けたあと教室で子供たちは名前を呼ばれ、元気に「ハイッ！」。親たちの緊張した顔に比べ、子供たちの顔には喜びがいっぱい。「○○ちゃんや○○くんも一緒だ」とニコニコ。

保育園に通っているときにはそれらしく、また新一年生になっても、これがまた異和感なく溶け込める子供たちの成長と吸収力を、わたしたちもちよつとは見習わなくてはならないようですね。入学式から約ひと月。みんな今日も元気に勉強しているかな。



いぬひと

No. 7

藤田 毅さん（橋本）

経営—というと会社や商店などのこと、と連想しがちですが、農業や漁業、酪農なんかもみんな経営ですね。今、いかに低コストで収益を上げるか、また所得を伸ばすかが経営手腕といわれています。ところで、今月号で紹介する「このひと」は、関東甲信越酪農青年婦人会議等の主催する「第十八回酪農経営発表大会」で、関東甲信越ブロックで見事優勝し、七月二十五日から二十六日に熊本県で開かれる全国大会の出場が決まった橋本の藤田毅さん（31歳）です。

藤田さんは北海道帯広畜産大学を卒業し、一年間北海道の酪農家で実習後、昭和五十五年からお父さんの光男さんと一緒に64頭の乳牛を育てている青年酪農家です。「発表は約二十分の持ち時間の中で、自分の経営状態を発表します。基礎的な資料がないと説明ができませんので、その資料づくりにも正直なところ苦労しましたね。もちろん、原稿も自分で作りました。また発表の要旨も事前に冊子になるため九ページにわたる図式入りの概要書づくりは大変だったですね」とニコニコ話す。

表でした。藤田さんが、関東甲信越ブロック代表に選ばれ全国大会の出場権を得た理由のひとつに、国の施策にあったことが挙げられます。ご存じのように、岩室村は決して酪農にむいている地域

ままの調子でいく保障はなく、これから厳しい状況に入っていくことは予想できますね」と鋭い分析をする藤田さん。話をうかがっている、国際的視野にたった分析力と状況判断や専門用語がポンポン飛びだし、さすがに勉強している様子がうかがえます。

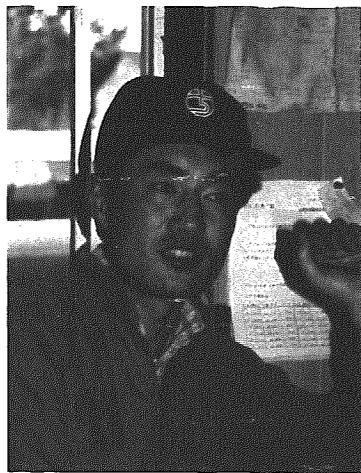
そんな藤田さんの酪農経営理念は「つねに来年か再来年のことを考えた経営」といいます。未来を考えた経営—言葉にしてしまうと簡単ですが、そこには仕事とはいえない並々ならない苦労と奮起があります。「将来は、スケールメリット（規模拡大）を図り、約百二十頭くらいの飼育をしたいですね。それと岩室村は稲作地帯、田んぼの有効利用を図りながら、稲作農家とのくらしい付き合っていくのが大切ですね」と話す藤田さんの言葉に酪農経営に真剣に打ち込むエネルギーを感じました。七月の全国大会では、すばらしい発表を期待しています。がんばってください、藤田さん。



「これが、うちで自慢の牛です。とっても美人？でしょ」と藤田さん

発表後は、三百人の聴衆から質問が寄せられ、それらにひとつひとつ解答するという質疑応答のコーナーもあり、気の抜けない大会だったといえます。藤田さんの発表タイトルは「省力化による所得向上をめざして」というもので、低コスト、省力化による所得向上を図るにはどうすればよいのかについての発

ではありませんね。それに規模的にも小さく、いかに省力化とコスト低減がはかれるかが問題です。藤田さんはそれらの点を見事に克服したことが認められたものです。ところで、時は円高不況。しかしその反面、メリット（利益）を受けたところもあります。酪農が、その一つです。「正直いって、円高メリットを随分受けました。顕著な見本が飼料ですね。以前から比べると約半分近くに年間の飼料代が軽減されました。でも、この



ゲートボール日和なんていうのがあるかどうかはわかりませんが、そんな好天に恵まれた先月七日、村民野球場で、ファン待望の「村民ゲートボール大会」が開かれました。参加は三十八チーム、約三百人。ところで、年々盛んになるこの大会で目を引くのが、おばあちゃんたちの活躍。応援だけを見ていると、「なるほどおばあちゃんだな」と納得してしまうんですが、いざ本番になるとこれがすごい。鮮やかなスティックさばきに頭脳プレイ。何回もタッチを繰り返して、終わりににはコート内のボールは全部なくなってしまうのではないかとと思うほどの勢い。そんな躍動感のあった大会結果は、優勝和納一区A、準優勝千歳B（橋本）、三位老栄A（原・津雲田）。ほがらか（和4）チームでした。

華やか至極 技の競演

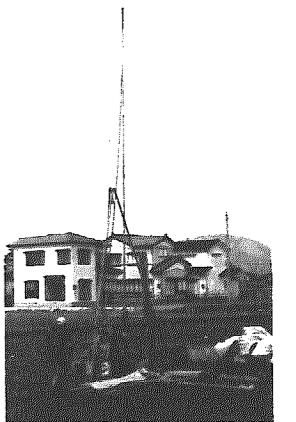
村民ゲートボール大会



ゲートボール日和なんていうのがあるかどうかはわかりませんが、そんな好天に恵まれた先月七日、村民野球場で、ファン待望の「村民ゲートボール大会」が開かれました。参加は三十八チーム、約三百人。ところで、年々盛んになるこの大会で目を引くのが、おばあちゃんたちの活躍。応援だけを見ていると、「なるほどおばあちゃんだな」と納得してしまうんですが、いざ本番になるとこれがすごい。鮮やかなスティックさばきに頭脳プレイ。何回もタッチを繰り返して、終わりににはコート内のボールは全部なくなってしまうのではないかとと思うほどの勢い。そんな躍動感のあった大会結果は、優勝和納一区A、準優勝千歳B（橋本）、三位老栄A（原・津雲田）。ほがらか（和4）チームでした。

和納小学校 建設用地の地質調査

先月号で位置決定をお伝えした和納小学校改築事業。土地所有者のみなさんの積極的な協力で用地も確保できたことから、先月1日から15日まで基礎的な地質調査（ボーリング調査）が行われました。結果は、ただいま分析中のためお伝えはできませんが、「百年の大計」ともいわれる和納小学校の改築事業が少しずつではありますが具体的に進行しています。



例年ですと村民野球場や村民テニスコートは、ナイターファンで連日にぎわっているのですが今年はちょっと異変？。シーズンに入っても歓声は聞こえてきませんね。それもそのはず、ただいま村民野球場などはグラウンドの土の入れ替えをしています。工事は順調に進んでいますので、今月20日のナイター開きでは、新しい土の感触を味わえるはず…。



エラーの回数が少なくなる？
ただいまグラウンドの土の入れ替え中